

施策番号 4-1-2	施策名 消防・救急の充実	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり			
		政策名	安全・安心に暮らせる生活環境づくり			
	主管課	芽室消防署	課長名	松久哲也	内線	62-5377
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えをすすめます。		町民、消防・救急体制	<ul style="list-style-type: none"> ・予防意識の醸成と、災害・緊急時の迅速かつ的確な支援 ・消防・救急体制の充実を図る 					町民の生命・財産を守る
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度(予想)	2022年度目標	
① 住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	77.05	68.0	63.0	70.0	90.0	
② 火災出動件数	消防署調べ	件	8	8	14	10	10	
③ 防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	2,603	1,200	165	2,200	2,200	
④								
成果指標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ①1年7%上昇を目標として算出したもの。 ②近年の火災出動の動向を基に目標値を算出したもの。 ③自主防災組織数の増加による参加者増を見込んで算出したもの。 							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算
施策事業費(千円)	376,801	419,210	367,411
人工数(業務量)			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2020年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①調査方法による振れ幅と考える。→過去7年間の平均値約70%。 ②③成果指標共に低下→新型コロナウイルス感染防止対策として各種事業を中止したことが要因と考えられる。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①従来の取り組みの他、設置調査を通じて住警器の必要性について認知度向上に努める。また、新たな取組みに向けての協議を推進する。 ②従来の取り組みを強化する他、消防職員による防火パトロールを推進し目標値達成を目指す。 ③自主防災組織・町内会・企業へ講習会開催の働きかけを強化する。
(2) 施策の成果評価に対する2020年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芽室消防署活動事業 芽室消防団運営事業 芽室消防庁舎維持管理事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「芽室消防署活動事業」→消防が目的としている町民の生命、身体及び財産を災害から守るため、計画的に安全装備及び各種資機材の整備・更新を図り、災害現場において消防隊が安全・迅速な活動を遂行することができた。 ・「芽室消防団運営事業」→消防団設備整備費補助金を活用し、部隊間の正確な情報共有を行うために必要な装備として、高性能デジタル簡易携帯無線機を導入し、災害現場における安全・迅速な活動体制の構築を図った。 ・「芽室消防庁舎維持管理事業」→とちぎ広域消防事務組合ネットワーク基盤整備に伴い、業務の効率化を踏まえた機能的なレイアウトを目的としたOAフロア化(事務所床改修工事)を実施したことで、良好な執務環境の構築を図ることができた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
					○

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 救急出動に占める65歳以上の高齢者割合が上昇している。→令和2年の救急出動に占める65歳以上の割合は66%(673件の内445件)。</p> <p>《今後の予測》 芽室町の人口は減少に転じているが、高齢者割合は上昇している。→救急出動に占める高齢者割合を勘案すると救急出動件数の上昇が予想されることから、救急車2台体制維持並びに消防職員(救急救命士)の確保を計画的に進める。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<p>●住宅用火災警報器の普及促進及び維持管理の推進について 警報器の設置率向上に加え、設置から10年を経過した警報器交換を促進する広報活動を強化する。また、新たに実施すべき取り組みとして、未設置住宅全戸への警報器設置支援に関する協議を推進する。</p> <p>●火災発生の防止対策について 毎年度ゴミ焼が原因の火災が発生し、ゴミ焼から建物火災へ発展したケースもある。ゴミ焼は廃棄物処理法で規制されていることから芽室町役場及び警察署と現場対応を強化し、広報誌やホームページでゴミ焼の危険性・違法性を広報する。また、事業所や農業従事者に対する予防講習会開催について検討する他、消防職員による防火パトロールの強化・推進を図る。</p> <p>●防火講習会・普通救命講習会参加者向上について 講習会参加者数増を目指すために、新たに設立された自主防災組織に講習会の開催に向けた働きかけを強化する他、自主防災組織未設置の町内会又は未実施の事業所等へ講習会参加に向けた働きかけを強化する。</p>
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	コロナ禍という特殊要因により成果指標は低下しているが、デジタル簡易携帯無線の導入や消防庁舎機能の向上など、後退とまでは言えない。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	住宅用火災警報器の普及促進やゴミ焼きなどの火災発生の防止対策等における広報活動は、工夫して働きかける必要がある。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	前進したとまでは言えないが、後退したということも言えない。施策の結果から「D変わらない又は維持した」と評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見		<p>A: 実現した</p> <p>B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>				